

# 学生リポーターが



ますやみそ(呉市)

社長 舛本知己さん(47)



ますもと・ともしみ 米サンダーバード国際経営大学院で経営学修士(MBA)を取得。2004年に入社。営業販促課に配属後、07年から現職。呉市出身。

みそを製造、販売する、ますやみそ(呉市)は、こうじを使った食品を相次ぎ開発し伝統産業を守っている。社を率いる舛本知己社長(47)は、学生時代の海外での学びを生かしながら、人とのつながりにも目を向け、国外へも打って出る。そうした取り組みの現状や学生へのアドバイスを聞いた。

舛本 手は広島国際大・小西由芽(聞き手)は村上絵里花、県立広島大・秋貞千尋

— 学生時代、何に力を入れていましたか。  
食品工学を学んだ日本大在籍中の4年間に力を入れていたのはサーフィンです。朝5、6時から夕方まで海へ入っていたり、海外に1カ月行っていたり。食品工学科(当時)には、食品に興味があったので進みました。それから社会人を経て米国の大学院へ進学。26歳から29歳までの間、勉強もしましたが、世界中のいろんな人と出会いました。7割が外国の人で、その人間関係が学生時代の一番の財産になっています。

「田舎の学問より京の屋敷」という言葉を祖父から学びました。田舎にいるより、京都(都)に行けばさまざまなことを学べるという意味だそう。私も人生で大切にしてきました。

— 学生時代に頑張ったことが、社会人になってどう生きましたか。  
一番は努力。例えば、一つの英単語を十回くらい書いて体で覚えました。とにかく努力。一つの商品を生産しようとすると、どれだけの人を知ってもらい

## 時代に合わせ みそも進化



舛本社長(左端)にインタビューする右から村上さん、秋貞さん、小西さん

食べてもらうかを考えなければならず、苦勞する場面が多い。そのため小さな努力の積み重ねを身に付けられたことは役立ちました。  
大学院では、工場の運営や営業の仕組み、マーケティングなど、経営に必要ないろいろな勉強をし、今も生きています。  
— 現在の仕事で何を大切にしていますか。  
感謝を忘れないこと。お客さんに商品を買っていただき、社員も一生懸命働いてくれて自分がいります。会社にとって一番は礼節だと思います。創業から93年。そういった企業文化を引き継ぎ、相手を敬って行動したいです。

— 液体みそも出されていますが、どんな考えて商品を進化させているのでしょうか。  
戦時中は米問屋でした。戦争が終わり時代が変わって、みそを造るようになりました。みそを造る会社としては一番新しいのではないかと思います。チューブタイプは、料理を一から作る人は使わないでしょうが、時間がない人には重宝する商品。みそ汁だけでなく、炒め物に少し入れて味付けもできる。その時代の生活スタイルを考え、商品を作っています。

— 音楽を聞かせながら造っているみそがあるそうですが、その理由は。音域が広いクラシックの音を、トラ

ますやみそ 本社は呉市。1929年創業。みそ、調理みそ、甘酒、こうじなどを製造販売している。国内に事業所13カ所、グループ会社が3社ある。2022年4月期の売上高は39億円。従業員数は195人(9月末現在)。

— 社長になって経営で困ったことはありますか。  
就任してすぐは何も分からず、やることをやるしかなかったです。年々きつくなっています。  
中でも、新型コロナウイルスの影響が一番厳しかったです。原料価格も上がる中、消費者の方々の給料はなかなか上がらない。商品だけ値上がりしては買ってもらえないでしょう。人に会いに行けないことも大きかったです。画面上では味が伝わらないし、マスクをしている相手が笑っているかどうかも分かりません。  
— 学生へのアドバイスをお願いします。  
とにかく、自分が今いる場所から離れて、いろんな知識や文化を学んでほしい。そしていろいろな人とつながって、人と人の関係を大事にしてください。

協力 教育ネットワーク中国

広島国際大・小西由芽(21)



ターゲットに合わせた商品展開をし、みそを身近にしていきたいとおっしゃっていたのが印象的だった。最近減塩志向により味が甘めになっていたり、うまみを増すために大豆を増やしていたり、みその味が時代とともに変わっていることを知ることができた。

広島大・村上絵里花(21)



勉強熱心な社長は、学生時代から今に至るまで、たくさんの趣味を持ちながらいろんなものを見て回り、幅広く経験を積むことを大切にしているという印象を受けた。私も、常に周りをよく見て、興味を持ったことに対して積極的に挑戦し続けていきたい。

県立広島大・秋貞千尋(20)



「人と人のつながりが大事」という言葉が印象に残っている。自分のいる場所を離れ、さまざまな知識、文化に触れ、努力を積み重ねることを学んだという。私も、時間を比較的自由に使える今、いろんな場所を訪れることで人とつながり、自分を成長させたい。

インタビューを終えて